

薬剤部 DI ニュース

★坐剤について★

Q1. 2種類の坐薬を併用する際の注意点などありますか？

A1、2種類の坐剤を併用する際には、原則として緊急を要する薬剤を先に投与します。主薬と基剤の相互作用を考慮する場合には水溶性基剤のものを先に使用し30分から1時間程度の間隔をあけて油脂性基剤のものを使用します。

基剤	違い	当院採用薬
水溶性	大腸液の量によって溶け方が左右される。便秘などで大腸液が減少している方は溶け方が遅くなる	ダイアアップ坐剤 ナウゼリン坐剤
油脂性	体温によって徐々に溶けるか、軟化し吸収される。体温の違いによって溶け方が異なる。	《麻》アンペック坐剤 アンヒバ坐剤 新レシカルボン坐剤 ボルタレンサポ

Q2. 坐剤の保管はやはり冷蔵庫が良いですか？

A2、薬剤によっては「室温(30℃以下で保存)」と表示されているものもありますが、出来るだけ冷蔵庫で保存して品質の劣化を防止するのが良いと思われます。油脂性基剤の薬剤では融点が33～35℃付近になるように調節してあるので、高温の場所に置いたり、夏季に携帯したりすると、坐剤がとけたりやわらかくなったりします。

Q3. 当院採用坐剤の作用時間など教えてください。

A3、当院採用薬をまとめました

分類	薬剤名	効果発現時間	Tmax	効果持続時間
麻薬	アンペック坐剤	20分	1～2時間	6～10時間
消炎鎮痛	アンヒバ坐剤	30分以内	1.6時間	約4時間
	ボルタレンサポ	鎮痛:10～20分 解熱:30分以内	約1時間(食後)	鎮痛:約5時間 解熱:6～8時間
	ユニブロン坐剤	約30分	30分～1時間	約4時間
抗てんかん薬	ダイアアップ坐剤	15～30分	1.5時間(小児)	約8時間
制吐作用	ナウゼリン坐剤	1～1.5時間 (50%吸収率到達時間)	2時間	約7時間 (血中濃度半減期)
緩下作用	新レシカルボン坐剤	10～30分	—	—

Q4. 坐剤がでてしまった時の対応は？

A4、薬によっては効き目が早く出てくるものや、ゆっくり効いてくるものがあります。追加して使用する場合は、1日の用量を超えないように注意が必要です。

【坐剤がでてしまった状況】

- ①入れた直後に出た→すぐに入れなおす
- ②入れて5分ぐらいで出た
 - ・溶けかけて形が崩れていない場合→入れなおす
 - ・溶けかけて形が崩れている場合→薬がどれくらい吸収されているかわからないためしばらく様子を見て、必要であれば入れる
- ③ほとんど溶けていた→次回の使用できる時間まで様子を見て待つ

